



第3章 自転車利用環境の向上に向けた目指すべき目標と対応方針

3.1 目指すべき目標

前章で整理した課題を踏まえ、富士北麓地域の自転車利用環境の向上に向けて、目指すべき目標は下記の通り設定する。

表- 3.1 目指すべき目標

分類	自転車利用環境の課題	目指すべき目標
自転車の走行環境	○ 自転車走行空間が確保されていない区間が存在	自転車走行環境の向上 (誰でも安全・快適にサイクリングできる環境の実現)
	○ 狭幅員路肩における車両との錯綜の危険性	
	○ 自転車歩行者道区間における歩行者との錯綜の危険性	
	○ 劣化した路面状況により走行性が悪い区間が存在	
	○ 道路横断時の危険性	
	○ 自転車通行ルール周知の不足	
案内周遊環境	○ サイクリングコースに対応し、かつ統一した案内がないため、スムーズな周遊ができない	案内誘導の充実 (分かりやすい周遊案内環境の実現)
自転車観光の受入環境	○ 自転車による周遊に対するバックアップ施設が不足	自転車観光の受入環境の充実 (多様な自転車利用目的に対応し得る受入環境の実現)
	○ 自転車利用環境、選択が限定的で、多様なニーズに対応していない	
	○ 自転車の持ち込みを考慮した公共交通機関が整備されていない	
	○ 多様なPRが展開されていない	多様なPRの展開 (魅力あるサイクリングコースとして知名度アップとブランド化の実現)



3.2 目標に対する対応方針

設定した目指すべき目標に対し、それぞれの対応方針は以下に示す。

表- 3.2 対応方針

目指すべき目標	課題	対応方針
自転車走行環境の向上 (誰でも安全・快適にサイクリングできる環境の実現)	<ul style="list-style-type: none"> 自転車走行空間が確保されていない区間が存在 狭幅員路肩における車両との錯綜の危険性 自歩道区間における歩行者との錯綜の危険性 	安全な自転車走行空間の創出 (理想的走行空間の実現)
	<ul style="list-style-type: none"> 劣化した路面状況により走行性が悪い区間が存在 	走行時の快適性の確保 (快適走行を演出)
	<ul style="list-style-type: none"> 道路横断時の危険性 	交差点等での横断時の安全性の向上 (危険の認識共有)
	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通行ルール周知の不足 	自転車通行ルール周知の展開 (自転車ダイバーシティ)
案内誘導の充実 (分かりやすい周遊案内環境の実現)	<ul style="list-style-type: none"> サイクリングコースに対応した案内がないため、スムーズな周遊ができない 	迷わず周遊可能な環境の創出 (手ぶらで目的地まで走行)
自転車観光の受入環境の充実 (多様な自転車利用目的に対応し得る自転車観光受入環境の実現)	<ul style="list-style-type: none"> 自転車による周遊に対するバックアップ施設が不足 	自転車観光周遊のためのバックアップ施設の充実 (気軽な休憩・立寄りをサポート)
	<ul style="list-style-type: none"> 選択、環境が限定的で、多様な自転車観光ニーズに対応していない 	多様な自転車観光ニーズに対応できる受入環境の向上 (多様な選択肢によるおもてなし)
	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の持ち込みを考慮した公共交通機関が整備されていない 	持ち込み自転車の利便性の向上 (自転車来訪機会を創出)
多様なPRの展開 (魅力あるサイクリングコースとして知名度アップとブランド化の実現)	<ul style="list-style-type: none"> 多様なPRが展開されていない 	民間事業者との連携を強化し、多様なPRの展開 (ブランド力強化)